海外感染症流行情報　2015 年 8 月号

東京医科大学病院　渡航者医療センター

・サウジアラビア・リヤドでＭＥＲＳ患者が増加

サウジアラビの首都リヤドで 6 月から MERS の患者数が増加しています。この流行は市内の軍病院で発生したもので、8 月中旬までに 50 人以上の患者が確認されました（WHO GAR 2015-8/21, ProMED 2015-8/24）。患者の中にはフィリピン人の看護師 2 名も含まれています。サウジアラビアでは 9 月 20～25 日に大巡礼（ハッジ）が行われ、世界中から多くの外国人がこの国を訪問します。今回のリヤドでの流行を含め、サウジアラビアでは各地で MERS の患者発生がみられており、大巡礼前後の期間は世界的流行への十分な警戒が必要です。

・東南アジアのデング熱流行状況

東南アジア各地は雨季を迎えており、各地でデング熱の流行が報告されています。8 月中旬までにマレーシアは患者数が 7 万人、ベトナムは 2 万人にのぼっており、昨年より増加しています（WHO 西太平洋事務局　2015-8/11）。また、タイでも患者数が 5 万人に達し、昨年の倍近い数になっています（英国 Fit For Travel 2015-8/25）。なお、昨年は 8 月中旬から東京などでデング熱の国内流行が発生しましたが、今年は現時点で国内流行はみられていません。

・インドネシア・バリ島で狂犬病再燃

インドネシアのバリ島で、今年になり 12 人の狂犬病患者が発生し、全員が死亡しました（ProMED 2015-8/4）。バリ島ではここ数年、狂犬病の患者数が増加していたため、日本からの滞在者に注意喚起が行われてきました。2014 年は患者数が 2 人に減少しましたが、再び増加している模様です。現地滞在中はイヌなどの動物に接触しないように注意するとともに、動物に咬まれた場合は直ちにワクチン接種を受け、発病を予防する必要があります。

・ヨーロッパ南部で蚊に媒介される感染症が発生

7 月初旬にスペインのバレンシアで 60 歳の男性がチクングニア熱を発症しました（WHO GAR 2015-8/10）。この男性は発病前にフランスを旅行していますが、バレンシアでの感染が強く疑われています。バレンシアでは今年 1 月から 7 月までにチクングニア熱の輸入例が 18 人報告されており、地元の蚊にウイルスが伝播された可能性があります（英国保健省 NaTHNac　2015-8/11）。なお、フランス南部のニームでも 2 名のデング熱の国内感染例が報告されています（英国 Fit For Travel 2015-8-21）。ヨーロッパ南部に滞在する際も蚊に刺されない対策が必要です。

・米国・ニューヨーク市でレジオネラ症が流行

米国・ニューヨーク市の South Bronx で今年 7 月～8 月初旬に肺炎患者が多発していましたが、その原因がレジオネラ症であることが判明しました。患者数は 124 人にのぼり、うち 12 人が死亡して

います。http://www.nyc.gov/html/doh/html/diseases/cdlegi.shtml
レジオネラ症は細菌性肺炎をおこす病気で、温浴施設などで感染することが知られています。今回のニューヨークでの流行は、ビルの冷却塔の水が汚染されており、それを用いた空調から感染したものとみられています（ProMED 2015-8/13）。

・日本で開催された世界大会の参加者に髄膜炎菌感染症が発生

今年 7 月 28 日～8 月 8 日に山口県山口市で第 23 回世界スカウトジャンボリーが開催されました。この大会の参加者を中心に、英国人 4 名、スゥエーデン人 4 名が帰国後、髄膜炎菌感染症に罹患していることが明らかになりました（Europe CDC 2015-8/21）。この大会には世界 160 カ国から 10 代の若者 3 万人が参加しており、患者の多くは大会期間中に感染したものとみられています。日本からも 6000 人の参加者がありましたが、罹患者はいない模様です（国立感染症研究所 2015-8/25）。
髄膜炎菌感染症は細菌によっておこる病気で、髄膜炎をおこすだけでなく重症のショック症状を併発することが知られています。西アフリカで毎年乾季に流行しますが、飛沫感染で拡大するため、集団生活や大規模集会の場で患者が発生することもあります。予防にはワクチン接種が有効で、日本でも今年からワクチンの発売が開始されました。日本では患者数の少ない病気ですが、世界的な大規模集会を開催したり、それに参加する際には予防対策をとる必要があります。